

会員調査報告 会員調査からみたコロナ禍における初年次教育

山田 剛史 / Tsuyoshi YAMADA, Ph.D.

関西大学 教育推進部 教授
教育開発支援センター

E-mail : t-yamada@kansai-u.ac.jp

Website :

1

問題と目的

《背景》

- 2020年初頭以降の新型コロナウイルスの感染拡大が大学教育や学生生活に与えた影響は計り知れない
- 特に、大学入学時・直後から遠隔授業を余儀なくされた新入生（2020年度・2021年度入学生）にとって、学習面・精神衛生面での影響は極めて大きい

《目的》

- 高校教育から大学教育への円滑な移行を促進するための初年次教育が、どのように組み立てられ、どのような課題に直面し、どのようにその課題に取り組んできたか、教職員からみた実態の把握とこれからの初年次教育のあり方について提言すること
- 理事会（課題研究活動委員会）の元、「初年次教育におけるCOVID-19への対応実態についての調査WG」を設置し、調査内容や実施方法等について検討、倫理審査の承認を経て実施

2

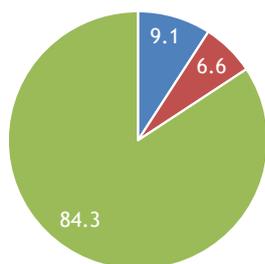
調査概要（1 / 3）

《調査期間》 2021年7月22日（木）～2021年8月20日（金） ＊一週間延長

《調査方法》 Googleフォームによるオンライン調査

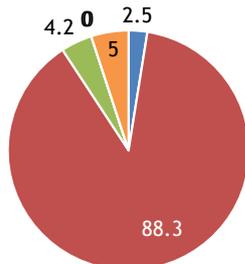
《調査結果》 回答者数121名（回答率22.5%） ＊個人会員537名／2021年6月22日現在

問1.所属機関の設置種別



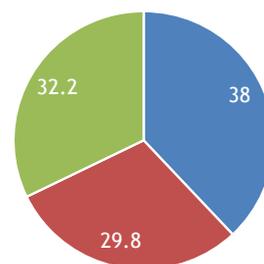
■ 1. 国立 ■ 2. 公立 ■ 3. 私立

問2.所属機関の種別



■ 1. 大学院大学 ■ 2. 四年制大学（専門職大学を含む）
■ 3. 短期大学（専門職短期大学を含む） ■ 4. 高等専門学校
■ 5. 専門学校 ■ 6. その他

問4.所属機関の学生総数

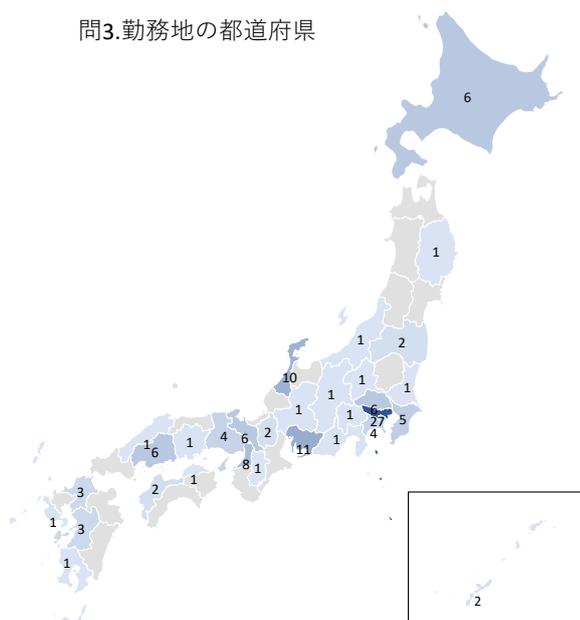


■ 1. 5000人以上 ■ 2. 2000人～5000人未満 ■ 3. 2000人未満

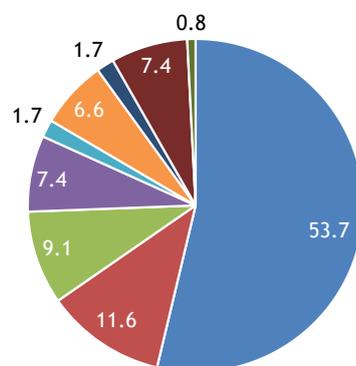
3

調査概要（2 / 3）

問3.勤務地の都道府県



問6.専門分野・業務分野



■ 1. 教員（人文社会科学系） ■ 2. 教員（理工系） ■ 3. 教員（医療系）
■ 4. 教員（教員養成系） ■ 5. 教員（芸術・体育系） ■ 6. 教員（その他）
■ 7. 職員（管理・総務系） ■ 8. 職員（教育・学生支援系） ■ 9. その他

4

調査概要（3／3）

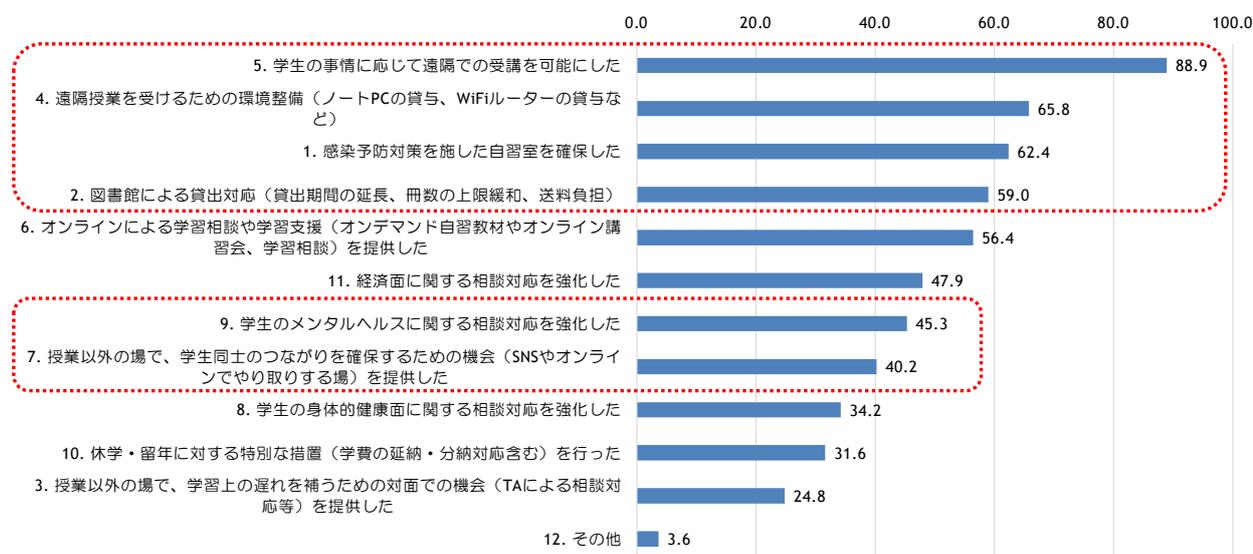
《調査内容》

カテゴリー	項目内容
A 基本情報	<ul style="list-style-type: none"> 所属機関の概要（設置種別，機関種別，所在地，学生規模）（4項目） 回答者の属性（職種，専門分野・業務分野，年代，担当科目）（4項目）
B 学内での組織的な対応	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度の学生（特に新入生，新2年生）への対応措置（1項目） 2020年度以降の各学期における初年次教育の実施方針（1項目）
C 初年次教育の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度前期の科目内容，実施方式，学生との双方向性の確保（3項目） 2021年度前期をコロナ禍以前と比較した，教育方法，学生の授業や課題に対する意欲，学生のスキルや技術等の獲得度（3項目） コロナ禍以前とコロナ禍以降の各学期とを比べた納得度（1項目） 初年次生に対する遠隔授業のメリット・デメリット（2項目）
D 自由記述	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での初年次教育の実践上の工夫 コロナ禍を経て，日本の初年次教育にもたらされるであろう変化

5

《結果1》 所属機関の組織的な学生対応

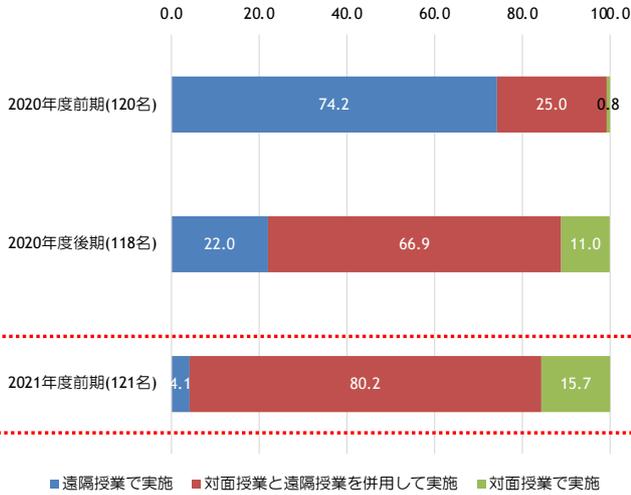
問9. 所属機関における2021年度前期の学生に対する対応措置



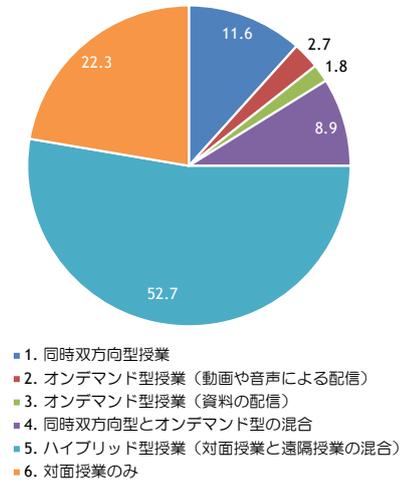
6

《結果2》初年次教育の提供方式

問10. 各学期の初年次教育の実施形態（機関方針）

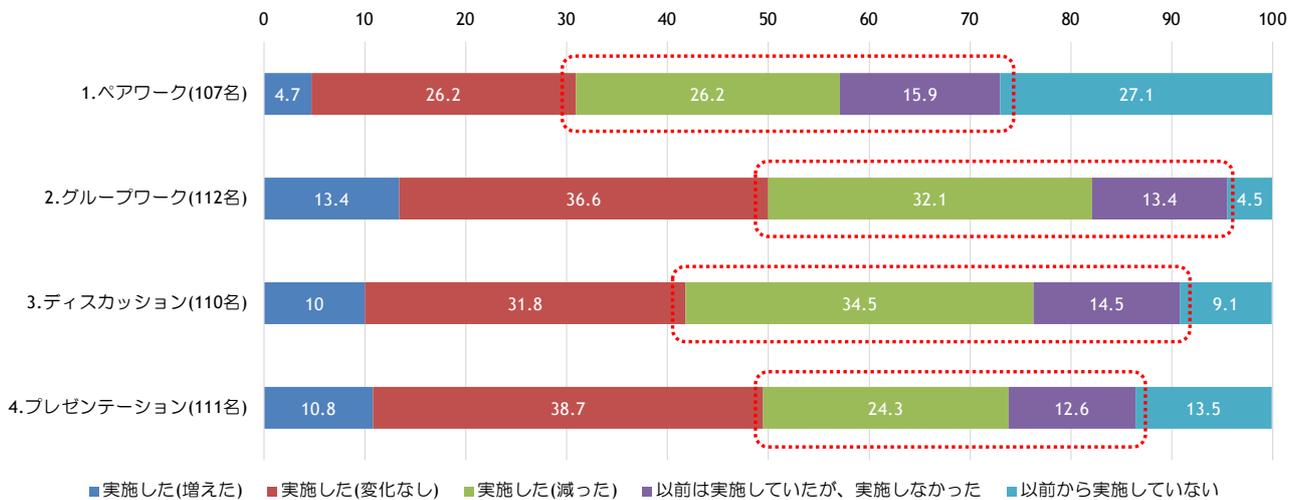


問12. 2021年度前期の初年次教育科目の提供方式



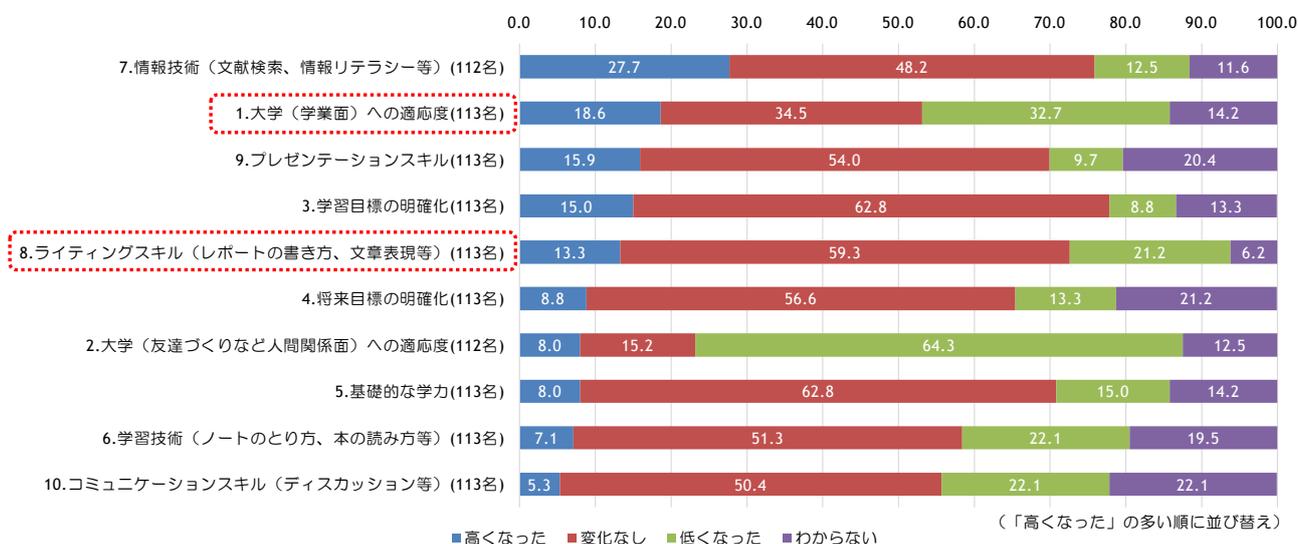
《結果3》コロナ禍以前と比べた初年次教育の教育方法

問13. コロナ禍以前と比べた初年次教育の教育方法



《結果4》 コロナ禍以前と比べた学生のスキルや技術等の獲得度

問16. コロナ禍以前と比べた学生のスキルや技術等の獲得度



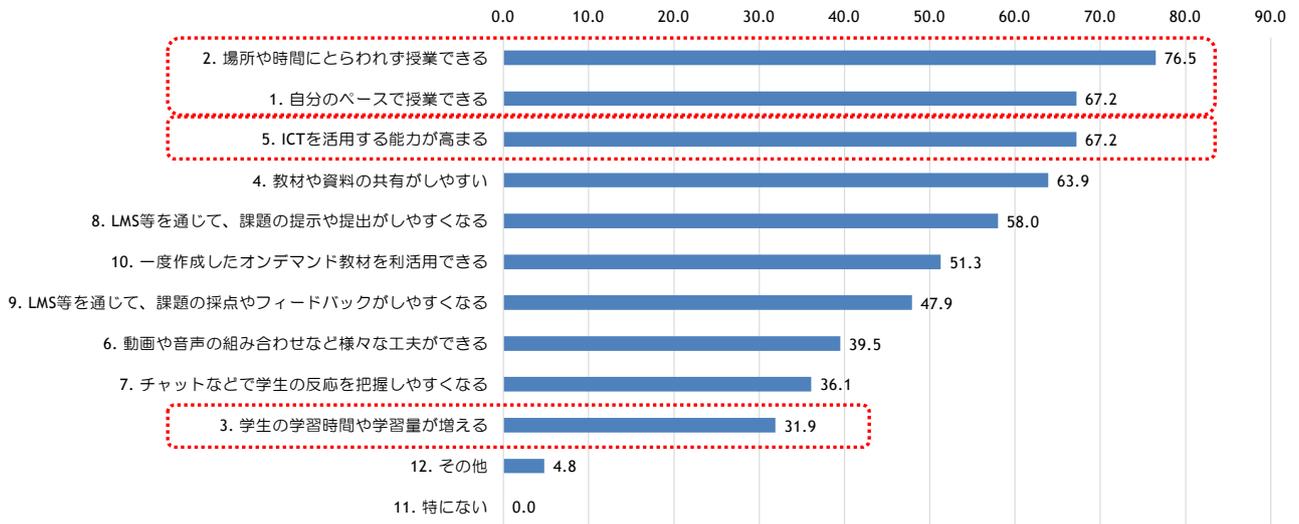
《結果5》 コロナ禍以前と比べた初年次教育の実感

問17. コロナ禍以前と比べた初年次教育の実感



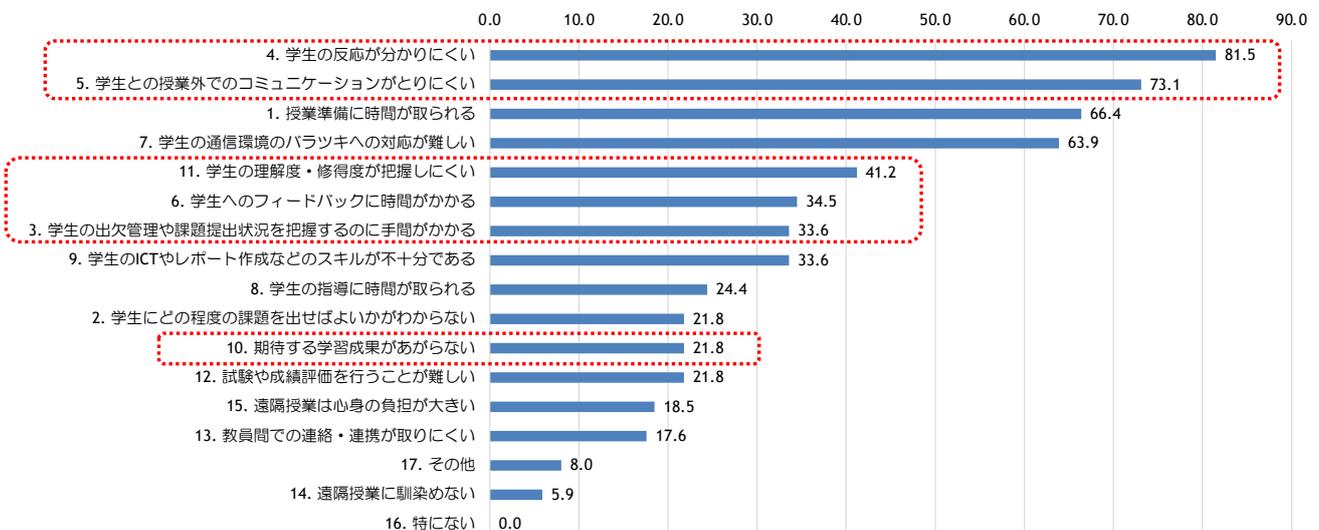
《結果6》初年次生に対する遠隔授業の利点

問18. 初年次生に対する遠隔授業の利点



《結果7》初年次生に対する遠隔授業の欠点

問19. 初年次生に対する遠隔授業の欠点

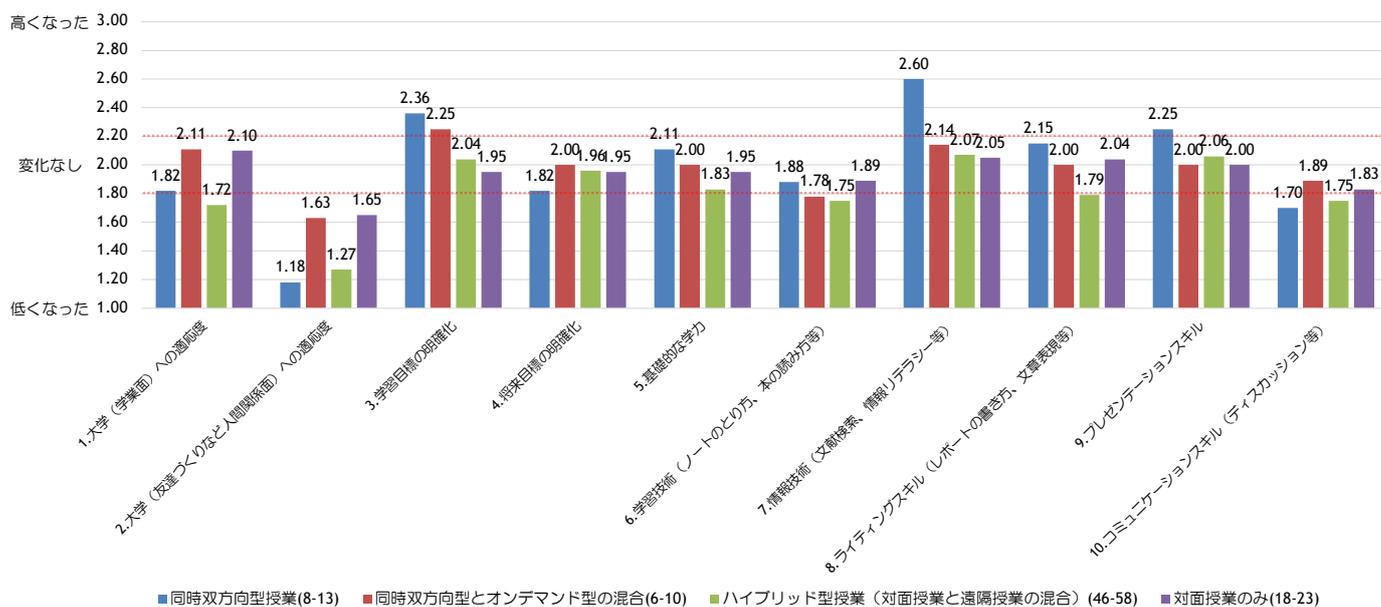


《分析1》 授業形態の違いによる教育・学習状況の差異

授業形態 (カッコ内は最大人数)	学生規模 (大:中:小/%)	教育方法 (増・変化無:減・今回未実施:元々未実施/%)				学生の授業意欲 (良くなった:変化なし:悪くなった/%)	コロナ禍以前と比べて、うまくいったか (2021年度前期) 数値は平均(SD), 4件法
		ペアワーク	グループワーク	ディスカッション	プレゼンテーション		
1.同時双方向型授業(13)	46:23:31	33:50:17	62:31:8	39:54:8	54:31:15	25:42:33	3.15(0.56)
2.オンデマンド型授業(5)	0:100:0	0:80:20	0:80:20	0:80:20	0:60:40	20:60:20	2.00(0.71)
3.同時双方向型とオンデマンド型の混合(10)	70:20:10	30:50:20	60:40:0	40:40:20	40:50:10	0:50:50	3.30(0.48)
4.ハイブリッド型授業(対面授業と遠隔授業の混合)(59)	39:22:39	34:39:27	48:50:2	45:52:3	48:41:10	36:43:21	2.90(0.61)
5.対面授業のみ(25)	28:32:40	30:30:39	52:40:8	44:39:17	63:21:17	9:68:23	3.08(0.49)
全体平均(112)	38:28:34	31:42:27	50:46:5	41:50:9	49:37:14	25:50:25	2.96(0.62)
*全体平均より5%以上高い場合は赤字, 5%以上低い場合は青字							F(4,106)=5.18(p<.01) 2 < 4 < 3 / 2 < 1, 5

《分析2》 授業形態の違いによる学生のスキルや技術等の獲得度の差異

コロナ禍以前と比べた学生のスキルや技術等の獲得度 (授業形態別)



《結果8》コロナ禍での初年次教育の工夫(FA)

※一部抜粋(全文は別添資料にて)、文頭のカテゴリーは筆者付与

- 《教材作成》動画講義作成において、一人で講義するのではなく、聞き手と話し手と2名で作成した。これにより、飽きない、聴きやすい動画にある程度できた。(私立・小規模・理工系)
- 《授業デザイン》基本的な学習事項はオンデマンド型(動画)で提示し、実践的な課題とフィードバックはzoomなどで双方向授業としたため、効率的な指導ができた。(私立・中規模・人社系)
- 《コミュニケーション》入学直後の学生間のコミュニケーションを促すために自己紹介の時間を数回設けるようにした。マスク着用下でお互いの表情が読み取れないことから顔写真を提示しながらの自己紹介なども取り入れた。(私立・中規模・医療系)
- 《コミュニケーション》オンデマンドの授業では、授業時間中にZoomを開けっ放しにする、何でも書き込んで良い質問箱を設置するなど、学生とのコミュニケーションを維持しようとしていました。(国立・中規模・教育学生支援系)
- 《FD》担当者により提供内容がばらばらな部分があった初年次演習の内容について、資料検索と文章作成に関してオンラインで統一した内容を5回分作成して、担当教員間での授業内容が統一されたことで、従来からの課題が克服できた。またこの統一コンテンツを21年度も授業内ないし予習資料として用いることで、方法は多様であっても学ぶ内容について統一を図ることができた。(私立・大規模・教員養成系)
- 《FD》授業開始後は、毎回の授業後、担当教員が集まる振り返り会を開催し、オンライン授業での不安・問題点を共有し、その場で対策を検討することができた。インターネット回線がつながらなかった場合の授業プランと教材をあらかじめ教員間で共有したり、映像コンテンツ作成に強い教員がオンデマンド動画を作成したりと、組織として各教員の強みを生かしながら機動力を持って対応できたことで、対面授業のときよりも学生の学習の質や学生からの授業への評価が高かったと感じている。(私立・大規模・人社系)

15

《結果9》コロナ禍を経て、日本の初年次教育にもたらされる変化(FA)

※一部抜粋(全文は別添資料にて)、文頭のカテゴリーは筆者付与

- 《総論》ポストコロナであっても遠隔での授業方法は変わっていかないであろう。またこのパンデミックで学生は対面授業と遠隔授業の両方の質について敏感になっていると感じており、今後は両方の質が問われる時代になっていくのではないだろうか。そのような中、高大接続(入学前教育含む)がますます重要になってくると思われる。
- 《コンテンツ》大学(特に大きな)は、対面講義とweb講義の両方を求められるようになるかもしれません。それに対応できるように、初年次教育の中に、web講義の受講の仕方、コツなどを伝えるような、また、経験するようなコンテンツが含まれるかもしれませんね。
- 《授業デザイン》レポートの書き方などスキルを習得する授業では、授業動画を通常授業に取り込むことで反転学習が可能となり、対面授業では課題のフィードバックや実践的な指導に時間と労力を割くことが可能となる。
- 《関係形成》オンライン授業が多いと友人作りに苦労している学生が多く見受けられるので、「人間関係形成の場」としての初年次教育の役割が重要になってくるのではないかと考える。
- 《ソーシャルスキル》初年次教育における学びでは、従来どおり、個人に関する学習スキルを育成するのはもちろんであるが、コロナ禍を経て、自分の居場所を確保するスキル、人間関係構築スキルなど、個人-集団の切替を行いながら、社会で生きてくためのスキルを育成する必要があるであろう。
- 《効果検証》方法論についてのみ議論をしたり、対面での学修成果を事後的にアンケートなどから感覚的に評価するのではなく、大学の文脈に照らした教育目標やその到達度評価などが、冷静に求められるようになるかと考える。
- 《組織支援》コロナ禍が収まってもICTスキルの必要性は変わらないと思います。学生、教職員が取り残されることがないように、個々人の能力や自主性に依存することなく、組織としてしっかりとサポートをする必要があるのではないかと思います。

16